

新刊紹介

『川はどうしてできるのか』

地形のミステリーツアーにようこそ

藤岡換太郎 著

講談社

シリーズ：ブルーバックス (B-1885)

2014年10月20日出版

サイズ：17x11, 222ページ, ソフトカバー

ISBN：978-4-06-257885-1

価格：860円+税



藤岡換太郎先生は、著名な海洋地質学者である。ご出身は京都市であり、雅な京言葉でありながら舌鋒鋭くお話しされる。東京大学海洋研究所や海洋科学技術センターにおいて、長きにわたり国内外の海洋地質分野でご活躍されてきたことは、皆様もよくご存じかと思う。我が国の誇る深海調査船「しんかい6500」で潜航調査を51回実施された研究者は他に例がない。2012年に同センターを退職された後も、神奈川大学や放送大学などで学生教育に携わっておられるとお聞きしている。

私が藤岡先生とお近づきになれたのは、2001年6～7月に行われたShinkai 6500/Yokosuka YK01-06航海の船上であった。この航海では、岡村行信氏(当時、産総研・海洋資源環境研究部門)と佐竹健治氏(当時、産総研・活断層研究センター)が研究リーダーを務められ、秋田県男鹿半島沖から北海道の積丹半島沖の日本海東縁収束帯において、#625～#635の11回の潜行調査が行われた。この時に得られた物探データや地質試料によって、この地域の地震の活動度評価が行われた。私にとって、この航海は「しんかい6500」に初めて乗船した思い出深いものであったが、この時ご一緒した藤岡先生から受けた様々なインパクトが、これを大きく凌駕している。その一端として、藤岡先生の多方面にわたる豊富な知識の量と質であり、まさに“歩く百科事典”を体現されている方であった。藤岡先生は、初めて「しんかい6500」に乗船する潜行前夜の

私に、乗船研究者としての心得や観察ポイントを厳しくかつ丁寧に教えてくださった。私が研究者としてこの航海で得た知識と経験は、その後の研究を遂行する上での礎の一つとなっている。

ところで、海洋分野の学会において今なお、藤岡先生はやや厳しめの論客として名を馳せておられるが、それだけ質の高いコメントや質問をタイムリーに出来るのも、我々凡人には、計り知れないほどの勉強量や経験値の賜物なのであろう。

藤岡先生の多方面への博識ぶりは前述したとおりであるが、実は海底と同じほど陸上の地形にもとても詳しい。さて、2012年以来、藤岡先生は続けざまに2冊の普及書を講談社ブルーバックスから出版された。地球のダイナミクスについて解説した『山はどうしてできるのか』、地球進化史について解説した『海はどうしてできたのか』、これに引き続く、第3部の完結として『川はどうしてできるのか』というタイトルの著書を2014年10月に出版された。私も仕事柄、川の成因や起源については地形学や自然地理分野の著名な先生のお話を聞く機会は多々あったが、この本はたいへんユニークである。それは、一般的な地形学の教科書にあるような基礎的な河川地形の説明は殆どなく、冒頭から川の研究の本質に迫っている点にある。

私たちの生活圏には無数の川が存在している。海が無くても川の無い都道府県は無いくらい身近な存在と言える。

川の一生は、最初は同じ一滴の水滴に始まるのに、その後の姿は取り巻く環境によって多様に変化し、時として土石流や洪水として人間に災いをもたらすやっかいな存在ともなっている。

本書は3部構成となっているが、藤岡先生の意図があり一寸ひねられている。

まず第1部では、川に纏わる13の謎を次々にクイズ形式に出題し、前半に読者に問いかけ、後半に筆者の考えを示している。これら13のQ&Aの繰り返しにより、川に纏わる基礎知識を、楽しみながら学べるような仕掛けになっている。例えば、アーサー・ホームズの“Principles of Physical Geology”にも書かれているヒマラヤ山脈をのり越える川の起源、砂漠で突然洪水を起こしたり消滅したりするタリム川の謎、東アジアの黄河、揚子江およびメコン川の3大川が特異な流路をとった理由？名水柿田川の源流と富士山との関係、等々。この章を読んでいると、川の成因を考える上で、従来の地形学のみならず、地質学的視点が必要であることがたいへん良く理解出来る。

第2部では、多摩川を例としてあげ、上流、中流と下流にわけて、順に河川地形を解説している。この章は、一般的な地形学の普及書の内容に準じているが、プレートテクトニクスとの関連性で地形に関する解説が加えられてい

る点の特徴であろう。

第3部では、藤岡先生の考えておられる、国内や世界の川についての3つの仮説が大胆に書かれている。この章は、真偽はさておき最も楽しく読めた。

但し、筆者も巻末に書かれているとおり、川の起源を知るのは容易なことではない。おそらく今後も大きな進展は望めないであろう。何故なら昔の川の痕跡は、その流域には殆ど残らないからである。川は常に現在を生きており、「流れ」があることが過去の痕跡を抹消し、これが川の起源の研究の妨げとなっている。今後も、きちんとした検証は難しいかもしれないが、“興味をひかれていることを、自由な発想で大胆に見てほしい！”という藤岡さんの願いが込められている一節なのである。

冒頭で述べたとおり、本書は『山はどうしてできるのか』、『海はどうしてできたのか』（ともに講談社ブルーバックス B1756 および B1804）に続く3部作の最終版である。これら3冊をあわせ読むと、“地球上の地形全般に関して、時空を越えた地質学的視点をあわせ持つことができる！”，と私は考えている。

なお、藤岡先生の長きにわたる友人である西村 昭氏に粗稿を査読頂いた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(産総研 地質情報研究部門 七山 太)